

## [将来像] 2 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する

心と体の健康を礎に、兵庫の豊かな社会基盤や蓄積の中で、自分の個性を生かしたライフスタイルを確立し、地域や社会で自分なりの役割を果たすことにより、生涯にわたって充実感や幸せを実感できる社会が実現している。

### キーワード

- ・健康づくり
- ・医療、福祉、介護
- ・潤い、感動
- ・元気高齢者の増加
- ・生きがい、やりがい
- ・自然、農、食
- ・社会参加、地域活動
- ・生産年齢人口が死語に

### 夢提案

- ・今までの物質的な豊かさというのを反省して、余裕のある暮らしの意識を持つことが大事。(みんなの夢会議参加者)
- ・障害がある人もない人も同じように扱われ、社会に貢献できるようになってほしい。(淡路市高校生)



### 将来像のあらまし

#### (1) 誰もが適切なアドバイスと多様なサービスのもと健康で暮らすことができる

ネットワークと技術を生かした健康づくり支援のためのシステムが整っている  
病気になったり介護が必要になったりしたときに利用しやすいサービスが身近にある

#### (2) 感動や潤いをもたらす歴史、文化、芸術、学びが生活に根づいている

芸術文化活動の場が身近にあり、住民参画の運営が地域の芸術文化を支えている  
さまざまな世代の人が地域の祭りなど伝統芸能・文化、歴史資源をしっかりと守り、親しんでいる

スポーツ活動や生涯学習に気軽に参加できる場や仲間があり、学びが地域の人との交流や地域づくり活動へとつながっている

#### (3) 自然や農、食を楽しむ新しいライフスタイルが広がっている

都市部から多自然地域への住み替えや二地域居住が県民に広がっている  
都市と自然が近い兵庫の特性を生かし、多くの人が農園や交流施設で気軽に農業や自然を楽しんでいる

#### (4) 年齢や性別、障害の有無、国籍、文化の違いなどにかかわらず、誰もがいつまでも主体的に地域や社会で活躍している

誰に対しても、個性と能力を生かしたしごとや多様な社会参加の場が生まれている  
学び、しごと、社会貢献などがいつでも選択可能な複線型社会が実現し、誰もが生涯自分なりの役割を果たし、充実感を得ることができる  
生産年齢人口という概念がなくなり、誰もがいつまでも地域や社会で役割を果たしている

**(1)誰もが適切なアドバイスと多様なサービスのもと健康で暮らすことができる**

- ネットワークと技術を生かした健康づくり支援のためのシステムが整っている
- 情報通信ネットワークなどを利用した個人にあった健康づくりを支えるプログラムが普及し、多くの人々が目標を持って健康づくりに取り組んでいる。
  - 健康づくりやスポーツ活動をテーマにした地域での幅広い活動や交流が広がり、健康寿命が伸びている。
  - 誰もが自分なりのストレス解消法を持つとともに、心の不調に気づいてくれる家族や身近な友達を持っていることで、心の健康を保つことができる。

**始まっている取組等**

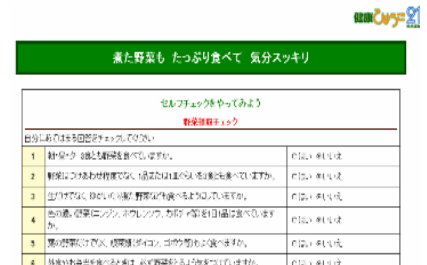
**<生活習慣病予防への取組>**

- ・死因の6割を占める悪性新生物、心疾患、脳血管疾患はいずれも生活習慣と関わりが深いといわれている。こうした生活習慣病の予防を目的として、気軽に参加できる健康づくりのプログラムや、必要に応じてテレビ電話での健康指導などが実施されている。

**= 健康マイプラン 200万人運動（県内） =**

兵庫県では、一人ひとりの健康状態や体力、生活状況に合わせた、実践しやすい生活指導プログラムである「健康増進プログラム」を生かした健康づくりが広がっている。

インターネット上では、いつでも簡単に健康チェックができる「e-チェックプログラム」も開設されていて、肥満度判定や生活習慣のリスク判定などを行うことができる。



**e-チェックプログラム**

**= 生活習慣病から市民を守る e-ウェルネスステーション（千葉） =**

生活習慣病予備群の中年層をターゲットに、駅やショッピングセンターを拠点としてライフスタイル型の健康づくりの取組を始めている。参加者は、オーダーメイドの運動・栄養プログラムを日々の生活の中で実施しながら、携帯する歩数計でその状況をモニタリングし、1ヶ月に1回インストラクターからのアドバイスを受けて、プログラムの継続に取り組んでいる。

**= 健康増進型ネットワーク事業（岩手） =**

高齢者をはじめ市民が、定期的に地区センターなどの集会施設で健康状態を計測し、テレビ電話を通じてデータサーバに健康管理データを構築。データは遠隔専門医と地域の看護師などの支援スタッフが情報共有し、テレビ電話での指導や巡回指導をネットワーク化することにより、「顔の見える」健康づくりと疾病予防を展開している。

**<身近なスポーツ活動>**

**= スポーツクラブ 21（県内全小学校区） =**

地域住民の自発的・主体的運営によるスポーツクラブ。小学校体育施設などの身近な施設を利用して、スポーツ遊びや親子体操、ニュースポーツなど、さまざまな種目を開設している。



**スポーツクラブ 21**

**取組の視点**

一人ひとりが目標を持った健康づくりの取組とその支援  
心と体のストレス解消法づくり

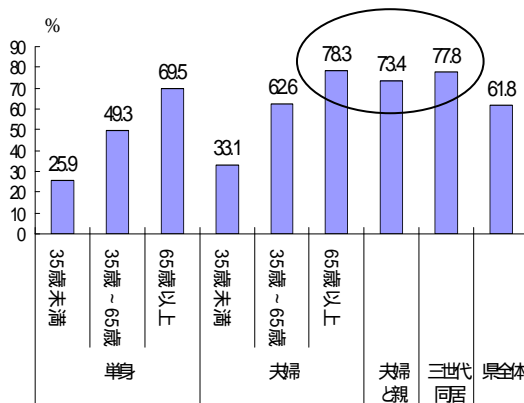
- (1) 病気になったり介護が必要になったりしたときに利用しやすいサービスが身近にある
- 地域の医療機関や福祉・介護施設が、個人情報の保護に配慮しつつ相互に連携して患者一人ひとりに対応し、質の高い医療・介護を地域内で効率的に提供しており、高齢化が進展する中でも地域の安心をしっかりと支えている。
  - 普段受けている医療がどこでも継続して受診できる、情報共有のしくみが普及し、安心して旅行や転居ができる。
  - 定期的な訪問診療や訪問介護が高齢者の在宅生活を支え、住み慣れた地域で暮らし続けたい人が、家族や地域の人とのふれあいの中で穏やかな終末期を送ることができる。

始まっている取組等

< 現住地での居住継続志向が強い高齢者 >

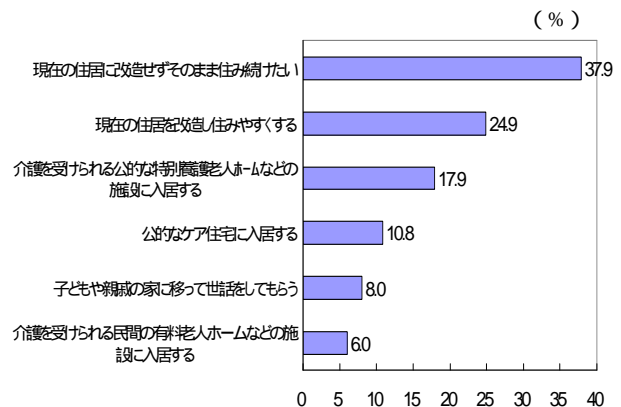
- ・ 現住地での居住継続の意向は、65歳以上の夫婦世帯や単身世帯で高くなっている。また、虚弱化したときは「自宅にそのまま住み続けたい」という高齢者の意見が多くなっている。

【居住継続の意向(兵庫県)】



(出典：住生活総合調査(H20)を基に兵庫県ビジョン課作成)

【虚弱化したときの居住形態】



(出典：高齢者の住宅と生活環境に関する調査(H17 厚生労働省)を基に兵庫県ビジョン課作成)

< 住民に安心な医療、介護、住居の一体的運営 >

- ・ 医療機関、介護施設、住居を一体的に運営する医療機関も現れ、自宅にいながら医療、介護のサービスを受けることが可能な住居も提供されつつある。

= 医療、介護、住居の一体的運営(福崎) =

医療法人が、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所と併設したシルバー向け賃貸マンションと診療所を運営し、24時間体制でマンション住民に対応できる体制を整えている。

< 安心な医療体制の確保 >

- ・ 緊急の場合の対応から健康診断の結果まで相談できる身近な医師を確保し、診療所と病院の連携により安心して医療を受けられる医療体制の構築が進んでいる。

= 質の高い地域医療を支える総合病院を核とした安全安心の確保（但馬） =

医師不足等による地域医療崩壊の危機の中、県はへき地医療のモデルとして、但馬地域で、急性期・慢性期医療の機能分担、診療科間の連携をスムーズにし患者の多様なニーズに応える「総合診療医」の養成を軸に医療体制の再構築を進めている。

#### < 自宅に近い環境で穏やかな終末期を過ごすホームホスピスの広がり >

- ・ 自宅で最期を迎えられないケアの必要な高齢者が、家に近い環境で終末期を穏やかに過ごす「ホームホスピス」が広がっている。

< ホスピスとは >

がんなどの末期患者の身体的苦痛を軽減し、残された時間を充実して生きることをめざした介護やケアを行う場のこと。このような場を、大規模施設や病院ではなく“もう一つの自宅のような住まい”で実現しようとする施設がホームホスピスである。“ホーム”には、その人にとって安らぎを感じることができる場所、との意味が込められている。

= 民家を改装してホームホスピスを運営するNPO（尼崎） =

訪問介護事業を行うNPOが民家を改装し、末期がんや脳梗塞を患い、一人暮らしが難しい人が過ごす「ホームホスピス」を運営している。スタッフが常駐して身の回りや食事の世話をし、必要な医療は、主治医の往診を受け、本人・家族が安心して死と向き合える環境を提供している。

#### < 介護する人を支えるNPO >

- ・ 家族を介護する人たちが集い、互いに悩みを相談できる場を設けるNPOが現れている。

= 介護する人を支える場を提供するNPO（西宮） =

設立者自身が、家族を介護する立場になったときに介護者が社会から隔離されることがわかり、介護者を支えていくことが必要だと感じたことをきっかけに「介護する人」をサポートするNPOを立ち上げた。



介護者同士が集い、情報や経験を共有する場(西宮)

### 取組の視点

地域における病診連携、病病連携、病介連携の展開

遠隔医療システムや電子カルテの普及による医療の地域間格差の解消

ホームホスピスや訪問診療による在宅での終末期医療の推進

**(2)感動や潤いをもたらす歴史、文化、芸術、学びが生活に根づいている**

- 芸術文化活動の場が身近にあり、住民参画の運営で地域の芸術文化を支えている
- 廃校舎や空き店舗が、アトリエや練習場などとして活用され、自ら芸術文化活動を行う人が集まる地域の小さな拠点が増えている。
- 活動の拠点となる芸術文化施設を住民参加で運営する形態が広がり、地域の芸術文化活動のすそ野を支えている。

**始まっている取組等**

**< 廃校を活用した文化・芸術の展開 >**

- ・ 地元のNPOが中心となり、廃校となった小学校の校舎を活用し、芸術活動の発表の場として利用し、地域内外の人が集まり、地域の活性化の拠点となっている。

= 廃校再生事業によるアートプロジェクト（淡路） =  
 「アーティストによる国際交流拠点としての施設利用」をめざし、廃校を活用して、地元のNPOが中心となって、国内外の芸術家が集まり、写真や映像の展示、演奏会などを行っている。地域の人々と国内外から参加者が場所を共有し、地域の活性化につなげ、新たな観光地となっている。



再生した廃校

**< 住民が参加した文化会館の運営 >**

- ・ 住民代表が文化会館の自主事業の企画からチケット販売までの全面的な参画を行い、地域の住民がボランティアスタッフとして舞台・音響を担当するなど、地域の芸術・文化拠点の運営を支える力となっている。

= 文化会館運営の住民参加（多可） =  
 自主公演事業について、住民が企画から事業の運営を主体的に担い、また、登録した20～50歳代の住民ボランティアが、公演事業の舞台美術、照明、音響、案内を担当し公演事業を支えている。

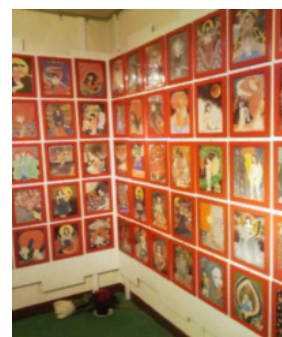


照明の住民ボランティア

**< 豊かな暮らしに向けた芸術や文化を生み出す活動が展開 >**

- ・ 教育、文化、環境、余暇に関わるサービスの需要が高まり、地域に新たなしごとの場が生み出されている。

= 若手芸術家の育成を支援（神戸） =  
 「アトリエ莓小屋」では、個展を開くことができない若手芸術家のためにアトリエをギャラリーとして貸し出し、彼らの作品を発信している。近くの施設などとも提携し、アートのスポットを巡るスタンプラリーも開催。若いアーティストの独り立ちを支援しつつ、実験的な取組を続けている。



アトリエ莓小屋(神戸)

**取組の視点**

空き空間などを活用した芸術文化を楽しむ場の拡大  
 住民、NPO、企業、行政など幅広い主体の芸術・文化活動の参画と協働

- (2) さまざまな世代の人が地域の祭りなど伝統芸能・文化、歴史資源をしっかりと守り、親しんでいる
- 誰もが児童期から地域の伝統芸能や文化、歴史に親しみ、それらが地域の生活の中に深く根づいている。
  - 地域の伝統文化や歴史を多世代で育み、次世代へつなげる取組が広がっている。
  - 地域の人が身近な祭りや伝統行事に積極的に参加しており、また地域から離れて住んでいる人も行事の機会に地域に戻ってきて地域がにぎわっている。
  - 地域の歴史や資源を地域の誇りにつなげたり、観光資源として生かすなど、地域ならではのツーリズムが生まれている。

## 始まっている取組等

### <地域の伝統芸能の継承>

- ・地域の伝統芸能を継承させようと、地域の団体や小・中・高校のクラブ活動や青年のグループの活動が県内で広がり、地域で伝統芸能が根づいている。



淡路人形浄瑠璃

### <地域資源を生かし地域まるごとの博物館づくり>

- ・地域の歴史や文化をひとつの建物に集めるのではなく、地域全体を博物館のように見立て、地域のさまざまな名所をサテライトとして展示することによって、地域資源のネットワーク化を図るとともに地域資源の大切さを地域内外に発信する取組も生まれている。

= 北はりま田園空間博物館（西脇、多可） =

西脇市、多可町では、豊かな自然や歴史文化、さらには伝統産業のほか、住民の生活そのものまでも含めた有形・無形の地域資源を博物館のサテライトとして展示する「地域まるごと博物館」の取組が進んでいる。

現在、北はりま田園空間博物館には約 200 のサテライトが登録されていて、北はりまの四季折々の魅力を楽しむことができる。また、この博物館の運営は、1市1町の住民組織のNPO法人「北はりま田園空間博物館」が担っている。

### <住民主体で伝統芸能を守り、復活させる>

- ・いったん途切れた地域の伝統芸能を住民の力で復活させた例もある。

= 住民の手で農村歌舞伎を復活（養父） =

この地域では農村歌舞伎「葛畑座」が400年前から地域の文化財である舞台において行われてきたが、娯楽の多様化やテレビの普及などで長らく途絶えていたが、地元住民の「もう一度歌舞伎を」という熱い思いから、37年ぶりの復活公演を実現した。

現在の「葛畑座」は、農業やサラリーマンなど全員、地元葛畑の人たちで、全て男性で構成。区の中堅世代が中心となって復活させた伝統芸能は、子どもへと受け継がれている。

## 取組の視点

地域の連帯感の源となる伝統芸能や歴史、文化の見直し、次世代への継承  
祭りなど行事における世代間交流による伝統文化や伝統芸能の継承

- (2) スポーツ活動や生涯学習に気軽に参加できる場や仲間があり、学びが地域の人との交流や地域づくり活動へとつながっている
- 多くの人が学びやスポーツを楽しむことを通じて、地域の人との交流の機会を増やし、地域とのつながりを深めている。
  - さまざまな分野における生涯学習や人的ネットワークを生かして、地域づくり活動に取り組む人が増えている。

## 始まっている取組等

### <生涯学習を生かした地域活動>

- ・生涯学習での学びを生かしてNPOを立ち上げる高齢者や、高齢者住宅と連携した生涯学習講座の提供など、学びを通じた地域活動や世代間交流が広がっている。

= 生涯学習での学びを生かしNPOを立ち上げた高齢者（川西） =

定年退職後に生きがい探しに高齢者大学・生涯学習講座に通い、2年間の学習のあと、自治会活動を経て仲間と地域文化の保存活動のためのNPOを立ち上げ地域活動に取り組んでいる。

= 大学と連携し学びの場を提供する老人ホーム（神戸） =

神戸市東灘区の有料老人ホームでは近接する大学と連携して入居者が学生とともに授業を受けることができる。共通の関心を持つ友人や学ぶことを通じた楽しさが生きがいになっている。

### 専門家の意見

- ▶ イギリスでは、共通の関心を持つ退職した人たちが5～6人のグループをつくり学習活動を行っている。その活動に対して大学が認証するため、サード大学と呼ばれている。（大学教授）
- ▶ 北欧では、5人ほどのメンバーでスタディ・サークルをつくり、助成を受け、環境問題や地域の政策などを学んでいる。社会に積極的に参画することをねらいとし、北欧全体では成人のうち25%が学習活動に参加しているといわれている。（出典：北欧の生涯学習支援 日本生涯教育学会）

### <学び方を学べる場>

- ・自主的な学びをバックアップしてくれる場が生まれている。

= まちなかの廃校利用で学びの場づくり（神戸） =

「コミスタこうべ」は小学校跡地を転用した生涯学習支援センター。貸会議室や生涯学習に関する情報相談コーナーを設置し、体験教室も実施している。



廃校を利用した学びの場

## 取組の視点

地域や大学などさまざまな主体が連携した生涯学習の実施  
生涯学習のコンテンツづくりと共有

**(3)自然や農、食を楽しむ新しいライフスタイルが広がっている**

都市部から多自然地域への住み替えや二地域居住が県民に広がっている

- 都市部から多自然地域への住み替えや二地域居住によって、ゆとりある住宅や緑豊かな自然環境のもとで、自然や農とのふれあいを楽しむ暮らしが実現している。
- 都市部から多自然地域に住み替えたり、通ったりする人々が、集落の住民と連携し、そこで展開されている地域活動や、森づくりなどの自然保護の取組の主体としての役割を担っている。

**始まっている取組等****<二地域居住の広がり>**

- ・都市住民の田舎暮らしを支援する団体や各市町の「空き家バンク」を介して、二地域居住が広がりつつある。

= 「いなか暮らし塾」での農村情報交換（朝来） =

田舎暮らしを考えている人たちや田舎の生活を体験したい人たちを対象に、“田舎体験事業”を実施したり、古民家などの情報提供を行い、最終的に“田舎で暮らす”支援を実施。農業体験、OB訪問などを通じて、都市住民の田舎暮らしを後押ししている。U・Iターン経験者が集い、情報交換も行っている。



いなか暮らし塾(朝来)

= 空き家バンクによる二地域居住の取組（県内） =

空き家の活用のため、県内市町などが主体となり、空き家などの情報を集めた「空き家バンク」を設置。インターネット等での情報発信により、田舎暮らしや二地域居住の希望者と空き物件所有者をマッチングする取組が広がりを見せている。

丹波市商工会では、空き家・古民家見学バスツアーを実施するなど、田舎暮らしを希望する人へのサポートを実施している。

**<学生が交流する集落の活動拠点>**

- ・地域をフィールドに活動しようとする学生たちが集落に拠点を設け、集落住民との交流を図っている。

= 集落の学生活動の拠点「若洲（わかす）学生村」（佐用） =

平成21年の台風9号災害支援をきっかけに佐用町に関わった学生たちが、町職員が所有する空き家を拠点として、月1回程度宿泊しながら、周辺の高齢者宅を訪ねたり、地元の交流行事の企画や運営するなど、積極的な交流を実施している。

**県民の意見**

- 都会の人が来てくれるのは歓迎。外部から刺激を受けるよい機会と思う。（豊岡市須野谷）

**専門家の意見**

- 学生に農村での仕事や生活の面白さを意識づけすることが必要。（2040年の兵庫研究会）

**取組の視点**

都市住民による田舎暮らしの留意点の習得

多自然地域における古民家改修や空家管理、都市住民と多自然地域住民との事前交流など、受け皿の整備



(3) 都市と自然が近い兵庫の特性を生かし、多くの人が農園や交流施設で気軽に農業や自然を楽しんでいる

- 多くの人が、健康の源となる食の安全の大切さ、いのちを育む素晴らしさを学び、身近な自然とのふれあいや農の体験の中で生かしている。
- 農体験をきっかけとして、本格的な就農に取り組む人が増えている。
- その土地の伝統的な食文化や食材の大切さが再評価され、暮らしの中に根づいている。

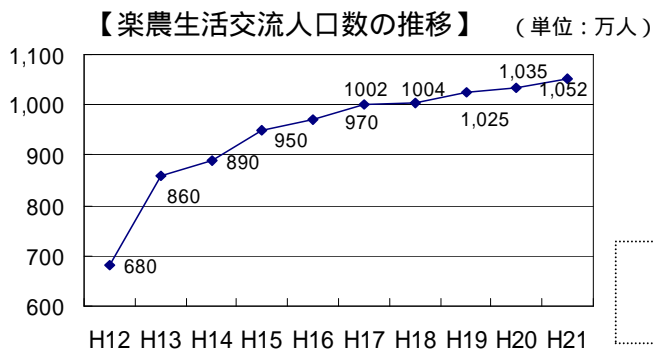
始まっている取組等

<農を楽しむ人の増加>

- ・農業との関わりを通じ、ゆとりと安らぎを実感できる新たなライフスタイルとして食と農に親しむ「楽農生活」のニーズが高まっている。



「楽農生活」を実践する拠点施設  
兵庫楽農生活センター



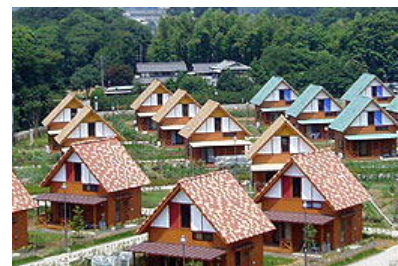
楽農生活交流人口数: 県内の都市農村交流施設(農林漁業体験施設、農家レストラン、総合交流施設、農業公園)、農家民宿、市民農園の利用者数

<クラインガルテンなどツーリズムの広がり>

- ・滞在型体験農園施設(クラインガルテン)など農を通じたツーリズムが広がりつつある。集落内の空き家と農地をセットにして活用することも考えられる。

= 滞在型体験農園施設(クラインガルテン) =

都市生活者に農業体験、農村体験を提供するために、棚田を活用するなど集落環境との調和を図りつつ、交流施設も備えた滞在型体験農園施設が、多可町や朝来市などに設置されている。こうした施設を活用し、地元の地区運動会、懇親会、稲刈り体験、収穫感謝祭など、多彩な行事での交流が進められている。



クラインガルテン(多可)

<都市部小学生の山村留学>

- ・都市部の小学生が1年間親元を離れて山村地域に留学し、第二のふるさと、第二の家族が生まれている。

= 山村留学(神河) =

「神河やまびこ学園」では、神河町の豊かな自然と農村の生活文化や歴史的資源を活用し、山村留学を核とした都市住民との幅広い交流、青少年の生きる力の育成を目的として、長期山村留学を実施している。子どもたちは1年間親元を離れて神河町へ転入し、月の2/3を地域交流センターで、残りの1/3を農家で生活しながら、地元の小学校へ通学することで、第二のふるさと、第二の家族を持つことになる。

取組の視点

- 自然や農体験を豊かな生活の実感へ結びつける習慣づくり
- 自然と親しむ場の住民主体による適切な管理

(4)年齢や性別、障害の有無、国籍、文化の違いなどにかかわらず、誰もがいつまでも主体的に地域や社会で活躍している

誰に対しても、個性と能力を生かしたしごとや多様な社会参加の場が生まれている

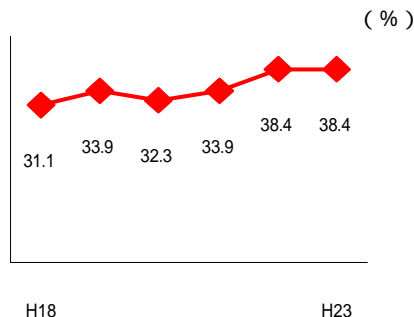
- 誰もが地域社会の一員として役割を果たしながら、共に支え合っている。
- しごとなどの義務的時間が減少し、地域活動や社会貢献活動に主体的に使うことのできる時間が増えている。
- 地域活動や社会貢献に興味を持つ人が増え、小グループの学びの輪や地域での活動が広がっている。
- 誰もが、地域の一員として地域づくり活動に携わっており、それぞれの個性と能力を生かして活躍している。

始まっている取組等

<バリアのない社会づくり>

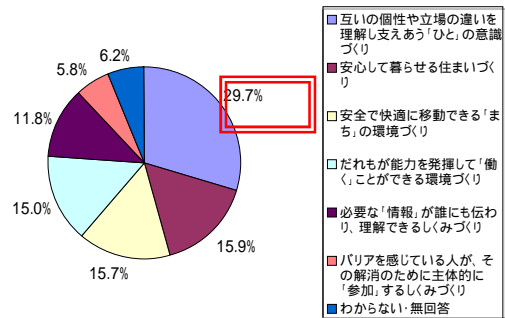
- ・住んでいる地域は高齢者、障害のある人にも暮らしやすいと思う人の割合は、わずかながら増加傾向にある。また、バリアのない社会環境づくりのために、互いの個性や立場の違いを理解して支え合う「人」の意識づくりが重要だと思ふ人が約3割を占めている。

【住んでいる地域は高齢者や障害者にも暮らしやすいと思う人の割合】



(出典：兵庫県「美しい兵庫指標」県民意識調査)

【バリアのない社会づくりのために重要なこと】



(出典：兵庫県「美しい兵庫指標」県民意識調査 (H17))

専門家の意見

- 知的障害児の方と幼児教育段階から一緒のおかげか、小学校のクラスの雰囲気が良い。対等にふれあえる場というのを小さいころに作ってあげることが大事。(長期ビジョン推進委員会)

県民の意見

- 障害のある人との交流は、感性豊かで柔軟な子どもの頃からの触れあい的大事。いろんな人がいるということ当たり前のこととして受け入れて大きくなることがとても大切。(淡路地域夢会議)

= 工房が人と人、心と心をつなげる場に (神戸) =

障害のある人が集まる場が欲しいという思いから出発したが、達成感を味わい次のステップへの自信と気持ちを持ってもらおうと、アート制作を中心とした工房をNPOが運営している。工房の活動を通じて人と人、心と心がつながる場になっている。



空き店舗を活用した授産施設 (ドーナツの店)



障害のある人が集まる工房 (神戸)

<仕事など義務的時間の減少、ボランティア時間の増加>

- ・仕事や家事などの第2次時間（義務的時間）が減り、自由に使える第3次時間が増加傾向にあり、またボランティア・社会貢献時間が増加している。

【義務的時間の減少、自由時間の増加】

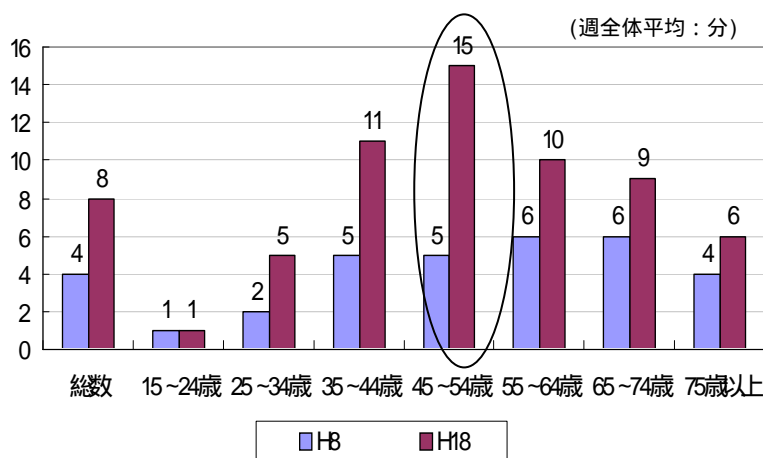
（単位：週全体平均、時間）

区分	項目	H8	H18	増減
全国	第1次時間：睡眠・食事など生理的に必要な時間	10.35	10.37	0.02
	第2次時間：仕事・家事などの義務的時間	7.13	7.00	0.13
	うち仕事	3.54	3.44	0.10
	第3次時間：自由に使える時間	6.12	6.23	0.11
兵庫県	第1次時間：睡眠・食事など生理的に必要な時間	10.29	10.34	0.05
	第2次時間：仕事・家事などの義務的時間	7.13	6.53	0.60
	うち仕事	3.42	3.27	0.15
	第3次時間：自由に使える時間	6.18	6.34	0.16

（出典：社会生活基本調査（総務省）を基に兵庫県ビジョン課作成）

- ・年代別にボランティア活動時間を見ると45歳～54歳の時間数の伸びが大きい。

【ボランティア活動時間の推移（兵庫県）】



（出典：社会生活基本調査（総務省）を基に兵庫県ビジョン課作成）



若者が、団体・企業・行政等の協力を得て、地域づくり活動を企画・実践する「ザ・わかもの座談会」

県民の意見

- 地域づくりの意見交換の場に若者が参加できるように工夫したい。夢甲子園というように名付けて勝ち残った高校生の若い生の声を地域づくりに反映したい。

（東播磨地域夢会議）

取組の視点

児童期から高齢者、障害のある人などと多様な経験や交流を行うことによる心のバリアフリー化教育の実施  
 地域活動団体への若者や壮年層、女性、障害のある人、外国人などさまざまな層の人々の参画促進

- (4) 学び、しごと、社会貢献などがいつでも選択可能な複線型社会が実現し、誰もが生涯自分なりの役割を果たし、充実感を得ることができる
- 日常生活支援や公共交通の運営など、地域づくりや社会貢献のしごとの領域が拡大し、地域の住民自身がビジネスとして展開しており、さまざまな人がこれらの活動に従事している。
  - 地域づくりや社会貢献のしごとでの経験が適切に評価され、民間企業や公共団体など異なる領域との相互の行き来が容易になっている。
  - 一度社会に出た人が、より高度な専門知識を求めて大学院などで学び直しを行い、新しいしごとの挑戦に生かしている。

## 始まっている取組等

### < 民間企業と地域活動 >

- ・ 民間企業での経験や生涯学習で得た知識を生かして、NPOを立ち上げたり、社会的起業に取り組むなど、新しいチャレンジが広がっている。

= 県内ヒアリングの事例から =

#### 事例1 民間企業経験を生かしている若手の社会起業家（宝塚）

大学の同級生など3人で民間企業経験を生かし「得意分野を生かして地域でニッチ（すきま）の強みを出す」ことをめざし起業。NPO向けのパソコン講座の開催、出張でのパソコン相談などを行い、地域にこだわり活動している。

#### 事例2 生涯学習講座などの学びを生かしNPOを立ち上げた高齢者（川西）

定年退職後に生きがい探しに高齢者大学・生涯学習講座に通い、2年間の学習のあと、自治会活動を経て仲間と地域文化の保存活動のためのNPOを立ち上げ地域活動に取り組んでいる。

### < NPOへの就職・転職希望者の増加 >

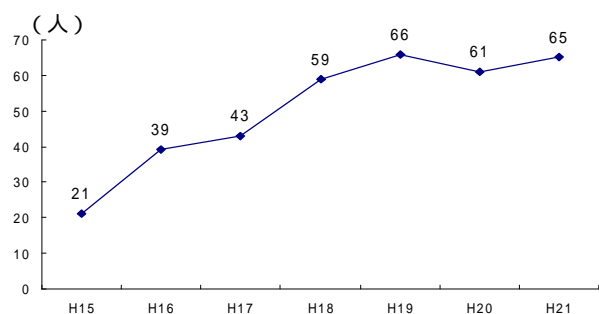
- ・ 幅広く人材を求めるNPOなどと就職・転職希望者とのマッチングを実現するため、2011年（平成23年）2月に東京で初めての本格的なNPO・NGO限定の合同就職・転職説明会として実施された「NPOキャリアフォーラム東京」。20以上の団体が出展し、定員を超える300名以上の学生等が参加した。

### < 社会人の学び直しが広がる >

- ・ 兵庫県立大学では社会人入学者数が増加傾向にある。

（出典：兵庫県大学課資料）

【県立大学の社会人入学者数】



## 取組の視点

NPOへの就職・転職希望者と求人とのマッチング

NPOと民間企業、公共団体との人材交流のしくみづくり

(4) 生産年齢人口という概念がなくなり、誰もがいつまでも地域や社会で役割を果たしている

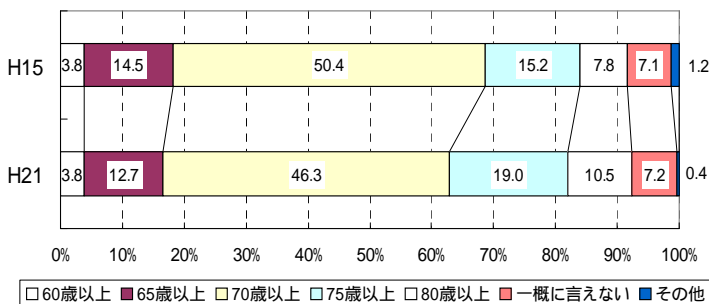
- 継続雇用の定着、定年延長やさらには定年廃止などが進んでいく中、元気な高齢者が、その経験や知識を生かして、年齢に合わせた働き方で活躍している。
- 誰もが仕事を通じて培った経験や知識、人的ネットワークを生かし、地域と企業を結びつける役割を果たすなど、地域活動や社会貢献活動に取り組んでいる。

始まっている取組等

<生産年齢人口が意味を持たない社会に>

- ・高齢者と思う年齢では65歳以上・70歳以上の比率が減少する一方、75歳以上・80歳以上の割合が増加しており、高齢者と思う年齢は高くなっている。
- ・高齢期の望ましい生き方として、経験、知識を活用し、かつ年齢に合わせた柔軟な働き方で、しごとや地域活動に活躍したいという意見が多い。

【高齢者と思う年齢の推移】

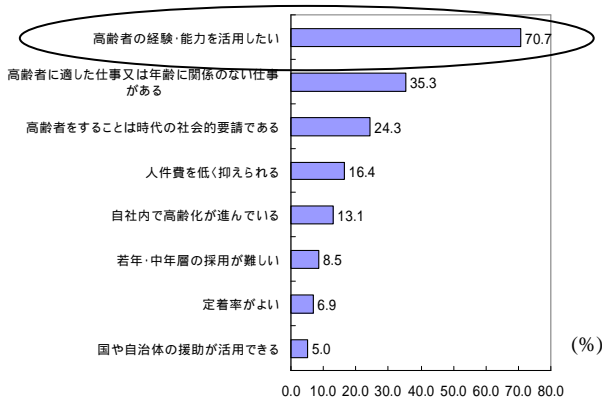


(出典：兵庫県「美しい兵庫指標」県民意識調査 (H21))

= 定年がなく熟練技術者が活躍 (高砂) =  
この企業の定年は63歳だが、継続雇用を希望する者全員を65歳まで再雇用し、65歳以降も本人の希望などに基づき、継続雇用している。

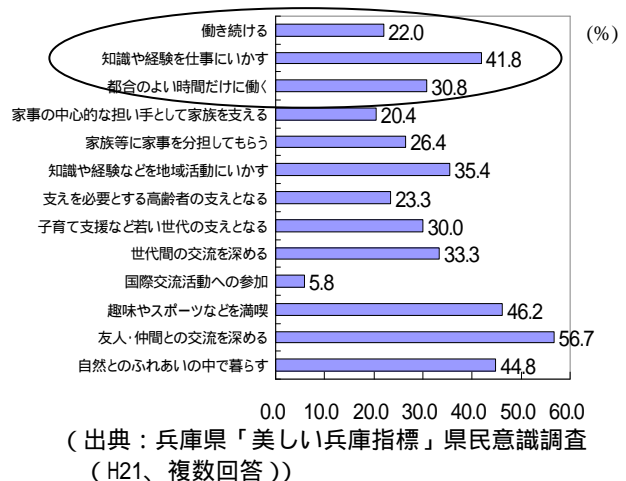


【高齢者の採用を増やす理由】



(出典：高齢者就業調査 (H16 厚生労働省))

【少子・高齢社会における高齢期の望ましい生き方】



(出典：兵庫県「美しい兵庫指標」県民意識調査 (H21、複数回答))

県民の意見

- 長年の職場勤めで知恵や技能を有している方の知恵等を活用するため、ボランティアをしてもらうようなしくみが必要ではないか。(東播磨地域夢会議)
- 経験と知識が豊富な高齢者の雇用は、大きな戦力。(神戸市内企業)

取組の視点

高齢者の知識・経験を生かした地域や企業などでの活躍の場づくり